

釈しゃく 迢空ちようくう

葛くずの花 踏ふみしだかれて、色あたらし。この山道やまみちをを行きし人あり

はろはろくくに 浮うきて来向むかふ海豚いゐるかのむれ。委つばら細つばらに 向むかきををかへたり

桜さくらの花ちりちりぐぐにしも
わかれ行く 遠とほきひとり
と 君きみもなりなむむ

おしなべて煙けむる野山のやまか―。照てる日ひすら 夢ゆめと思おもほゆ。国くにやぶれつ、

〈出典 『日本の詩歌 11』 (中央公論社、一九六九年)〉

【著者】 釈迢空 (しゃく ちようくう)

一八八七 (明治二〇) 年—一九五三 (昭和二八) 年
歌人、国文学者、民俗学者、大阪府の生まれ。本名、折口信夫。

【著書】 『海やまのあひだ』、『春のことば』など